

「部活動の地域移行に関するアンケート」調査回答結果の概要 【まとめ】

R6.2 月

網走市部活動地域移行検討協議会

① 小学校 4・5・6 学年 児童

回答件数: 442 件

- ・ 現在、少年団等に参加してスポーツ、習いごとをしている児童は、全体の約6割。
スポーツ系では ① 水泳 ② 野球 ③ サッカー ④ バドミントン
文化芸術系では ① ピアノ ② 習字 の順が多い。
その他 学習塾(そろばん、英語塾、公文)に通っているという回答も多かった
- ・ 活動(練習)は、「平日と休日の両方」「週2～3日」「1～2時間程度」がほぼ半数。
- ・ 活動理由は「上手になりたい」「活動が楽しい」「友達と一緒に活動できる」
- ・ およそ半数の児童が「中学生になっても今やっている活動(習い事)を続けたい」。
- ・ 中学生になったら学校部活動に入って活動したいかどうかについては「運動部に入りたい」と「まだわからない(考え中)」がほぼ同じ割合。
- ・ 入部したい部活動は
スポーツ系では ① バスケットボール ② バドミントン ③ バレーボール
文化芸術系では ① 美術 ② 吹奏楽 の順。
※文化芸術系は、中学校部活動が限られていることがほぼ認知されている。
- ・ 自分がやってみたい活動が学校部活動になかったとき、学校以外の場所(地域クラブ等)で活動できる場があればやってみたいか、との問いには
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が約4割、かつ同じ割合で「わからない」との回答であった。

② 小学生保護者

回答件数: 270 件

- ・ 子どもが各種活動(スポーツ・文化芸術)を行っている場合は、9割方が少年団や教室などに通わせている。
- ・ 毎月の負担額(月謝など)は、「1,001 円～3,000 円以内」が最も多い。
- ・ 子どもの活動は「健全育成(体力面・精神面)」につながるものと感じている保護者が大多数。
- ・ 活動に際して、保護者が負担に感じていることは「活動場所への送迎」が最も多い。
- ・ 中学校部活動を今後地域クラブ等が担うことについては、「賛成」「どちらかといえば賛成」との意見が7割強。 ※逆に「反対」という意見はゼロ。
- ・ 中学校の部活動が平日のみとなった場合、「学校の部活動と同じ種目」で「参加させたい」という意見がおよそ半数。

- ・ 地域クラブ等での活動費(月謝など)は、現在と同じくらいの負担額(=1,001円～3,000円以内)を希望する方が半数。
- ・ 地域クラブ等に期待することは「子どもが希望する種目の活動継続」「専門的な指導が受けられること」。一方、不安なことについては「活動場所までの送迎」「所要経費」「指導者や友達との人間関係」の順。

③ 中学校 1-2 学年 生徒

回答件数: 329 件

- ・ 現在の活動状況は、「**学校部活動**」が全体の 4 分の 3 (75%)。
地域クラブ等への加入のみでの活動は、1 割に満たない。
- ・ 活動状況は「**平日と休日の両方で活動**」「**週4～5日**」が大半。
- ・ 活動(練習)は、「**平日と休日の両方**」「**週2～3日**」「**1～2時間程度**」がほぼ半数。
練習時間は、平日で2時間程度、休日は3時間程度。
- ・ 部活動入部の理由は「活動が楽しい」から、また入部して良かったことも「活動が楽しい」がトップ。
- ・ 一方、部活動に所属して困ったことの上位は「学業との両立」「人間関係」「活動場所(狭い)」。
- ・ 学校部活動が平日のみとなった場合、休日にどんな活動をやってみたいかについては、「部活動と同じ種目」と答えたのは 4 分の 1 程度。
半数以上は「特になし」「活動はしたくない」との回答。
- ・ 学校部活動ではなく、地域クラブ等で活動することに関して期待することは「他校の生徒との交流」「専門的な指導」。一方で、心配なことは「活動場所までの移動」「他校の生徒との人間関係」「学校部活動との指導内容の違い」などを挙げている。
- ・ 現在、地域クラブ等に参加して(学校部活動との両方加入者を含む)活動していると回答した市内中学生の半数は、「**野球(=大空町リトルシニア球団)**」「**サッカー(=FC 網走)**」。
- ・ 週の活動日数、活動時間(平日/休日)は、学校部活動とあまり差異はない。
- ・ 活動場所までの移動は、「保護者による車送迎」で「**30 分以内**」。
- ・ 地域クラブ等への加入理由のトップは「専門的な指導が受けられること」。
所属して良かったことも同じく「専門的な指導が受けられたこと」のほか「他校の生徒との交流」「自分がやりたい種目の活動を続けることができる」「設備が整った環境で活動できる」。
- ・ 地域クラブ等に所属して困ったことについては、回答者の半数が「特になし」とのこと。

④ 中学生保護者

回答件数：169 件

- ・ 子どもが学校部活動に所属している場合、毎月の負担額(部費)は、「1,000 円以内」が7割強。「1,001 円～3,000 円以内」と合わせると9割を超える。
- ・ 学校部活動に対して「課題や負担に感じていること」は、「指導者との人間関係」と「専門的な指導が受けられない」がほぼ同数。
※ 別の設問で「地域クラブ等にお子さんを所属させている理由」について「専門的な指導が受けられるから」という意見が多数であることに、やや一致する。
- ・ 地域クラブ等の毎月の月謝(会費等)は、中学生になるとやはり月額 5,000 円以上の負担額が多数を占めているが、「地域クラブ等に所属して困ったこと」として挙げるのは、費用負担よりもやはり「活動場所までの移動、送迎」のほうが若干多い。
- ・ 「学校部活動と地域クラブ等の両方に加入」している中学生の種目は、「剣道」「陸上競技」が上位。
その理由として「小学生から続けてきた活動を部活動と両立させたい」のほか、自由意見として「学校部活動の顧問が未経験者」「両方に所属すれば練習時間が増える」などがある。
- ・ 部活動と地域クラブ等の両方で活動している子どもが、いずれかを選択する時期の見通しについては、4割が「中学校卒業時に合わせて」、3割が「まだ考えていない」と回答。
- ・ 保護者として「学校部活動に期待すること」は、子どもが「活動を楽しむ」「努力することの大切さを学ぶこと」「礼儀作法を学ぶこと」。
- ・ 中学校部活動を今後地域クラブ等が担うことについては、**回答者の 4 分の3が「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答。** ※「反対」「どちらかといえば反対」は1割弱。
- ・ 中学校部活動が平日のみとなった場合、休日に子どもを地域クラブ等に参加させたいかどうかについては「わからない」が半数。
かつ、休日の地域クラブ等での活動にかかる負担額(月謝など)は、3,000 円程度までが上限と考えられる。
- ・ 今後地域クラブ等が中学校部活動を担うことについては、期待することとして「専門的な指導が受けられる」「子どもが希望する活動の継続」「技術力の向上」とする一方、心配することとしては「活動場所までの送迎」「活動経費」「指導者との人間関係」を挙げている。

⑤ 中学校教職員

回答件数：78 件

- ・ 部活動の顧問(または副顧問)を担当する教員は「平日と休日の両方」に、「週4～5日」指導を行っているとの回答が8割超。
また、指導時間は平日2時間以上、休日3時間以上が大半。
- ・ 担当部活動を「専門として指導ができる」と回答した教職員は、全体の約4分の1のみ。
「専門で指導はできない」との回答が、全体の2分の1。
- ・ 何らかの指導資格を有する教職員も、回答者全体の約4分の1。
- ・ **8割以上の教職員が「部活動の指導に負担を感じている」。**
その理由は「休日に休むことができない」「教材研究の妨げになる」「校務が多忙で、満足な部活動指導ができない」。
- ・ 「学校部活動の意義についての考え方」は、「一定の必要性はあると思うが、地域クラブ等の活動でも教育的活動は可能」という意見が大多数。
- ・ 「学校部活動の課題と感じていること」は、やはり校務の多忙化と担当者への過大な負担。
- ・ 教職員が部活動の指導を行うことについては、生徒の指導に意欲的な意見がある一方で、やはり大半の教職員が「時間的、精神的な余裕がなく、負担になっている」と回答。
- ・ 学校部活動を地域クラブ等が担うことについては、8割強が「賛成」「どちらかといえば賛成」。
- ・ 学校部活動の地域移行に対して期待することは、「教職員の負担軽減」が突出しており、次いで「生徒が専門的指導を受けられる」「生徒が希望する種目の活動継続」。
- ・ 一方で地域移行に対し心配することとしては、「部活動を担う地域の受け皿」「指導者の人材不足」「責任の所在」など。
- ・ 地域移行となった場合、自身が地域の指導者として関わりたいかどうかについては「はい：いいえ」の割合が1対3。